

# 市立伊勢総合病院の建替えに関する 市民アンケート調査結果

---

平成24年5月

## 目次

I. 調査概要.....	2
II. 調査結果.....	4
III. 総括.....	28

## I. 調査概要

### 1 アンケートの目的

本調査は、以下の項目を中心に市民の医療機関利用実態及び市立伊勢総合病院に対する要望の把握を行うことにより、新病院の建設基本計画策定に向けた検討資料を得ることを目的とする。

1. 市民が理想とする市民病院像やそれに関わる意見の把握
2. 市民の受療動向の把握と新病院での受療予測
3. 当院受診の阻害要因の抽出と改善点の把握
4. 地域医療連携において、新病院に必要な機能に対する意見の抽出
5. 地域医療連携における新病院の役割の明確化

### 2 対象者について

調査対象者：市内に居住する20歳以上の2,000名（無作為抽出）

抽出方法：①年齢 年代別に同数抽出（20代、30代…70代以上）

②性別 男女別に同数抽出

③住所 概ね中学校区ごとに同程度比率数抽出

### 3 配布・回収の方法について

#### （1）配布数・配布方法

2,000票 郵送配布

#### （2）回収数・回収方法

943票（2012年5月8日時点）

郵送回収：対象者が返信用封筒（市立伊勢総合病院宛）を投函

#### （3）回収率

47.2%

#### （4）期間

発送日：平成24年3月16日

返送期日：平成24年3月31日

#### 4 アンケート調査件数の妥当性について 無作為抽出におけるサンプル数計算式

サンプル数の計算式

$$n \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{k}\right)^2 \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

			今回調査	
N	母集団の大きさ	129,772	129,772	129,772
e	最大標準誤差	5.0%	3.2%	3.0%
k	係数(95%)	1.96	1.96	1.96
P	母比率	0.50	0.50	0.50
n	サンプル数	383	943	1,058

- ※ 母比率は予測できないものとして標準誤差が最大となる50%、係数は信頼水準95%をもとにした1.96を用いた。
- ※ 最大標準誤差を±3%～5%と設定すれば、全住民が回答した場合の回答割合の誤差が±3%～5%程度に収まる確率が95%になるとの意味となります。
- ※ 母集団の大きさは、伊勢市人口（推計人口2012年1月1日）

#### 【用語の説明】

##### ●無作為抽出

標本調査の方法のひとつ。調査対象を手順に従って抽出する方法。

##### ●標準誤差

標本調査によって得られた数値が母集団の平均値からどれだけずれているかを表したものの。

##### ●母比率

調査実施件数における調査で得られたサンプル数の比率を母集団の比率で表したものの。

##### ●信頼水準

標本調査の数値がどの程度の確率で母集団の数値を表しているかを表したものの。

※標本調査では信頼水準が95%となる範囲に誤差を抑えることが妥当といわれる。

#### ◆アンケート調査件数の妥当性

○アンケート方法としては、『全数調査』と『標本調査』の2パターンが考えられる。今回のように伊勢市民全体の意見を得る上では、本来であれば全市民にアンケートを行うことが最良だが、約13万人の住民全てに意見を伺うには多くの労力と費用を要する。その費用対効果を考慮すると、無作為に選んだ市民を対象にした『標本調査』が妥当と言える。

○ただし、無作為に選んだ市民の意見は全市民の意見との間に誤差が生じる（これを標準誤差という）。この誤差を小さくするには、単純にアンケート対象者数を増やせば良いことになる。ただし、先述の費用対効果を考慮すると、アンケート対象者数の妥当性をどのように設定するかがポイントとなる。

○一般的に、標準誤差は5%以内であれば適切といわれる。上記の計算をもとに、最大標準誤差5%、3%、それぞれに必要なサンプル数を整理すると、標準誤差5%では383件、3%では1,058件のサンプルが得られればアンケート調査の信頼性として問題は無いということになる。

○今回のアンケート調査は、943件となっており、換算すると最大標準誤差3.2%相当となり、必要となるサンプル数を確保できていることとなる。

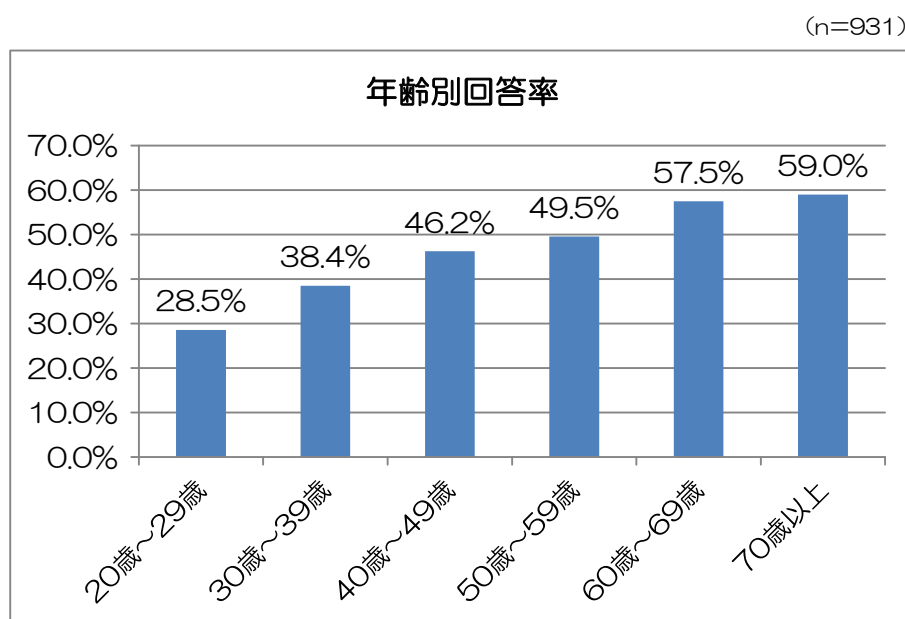
○それらを考慮すると、今回のアンケート調査は標本調査の妥当性を満たしていると言える。

## Ⅱ. 調査結果

### 1. あなたの年齢、性別、お住まいについて教えてください。

#### (1) 年齢階級別回答率

年齢別の回答率は、年齢が高くなるにしたがって高くなる傾向にあり、50歳代以上では、全体回答率47.2%を上回る回答率となっている。

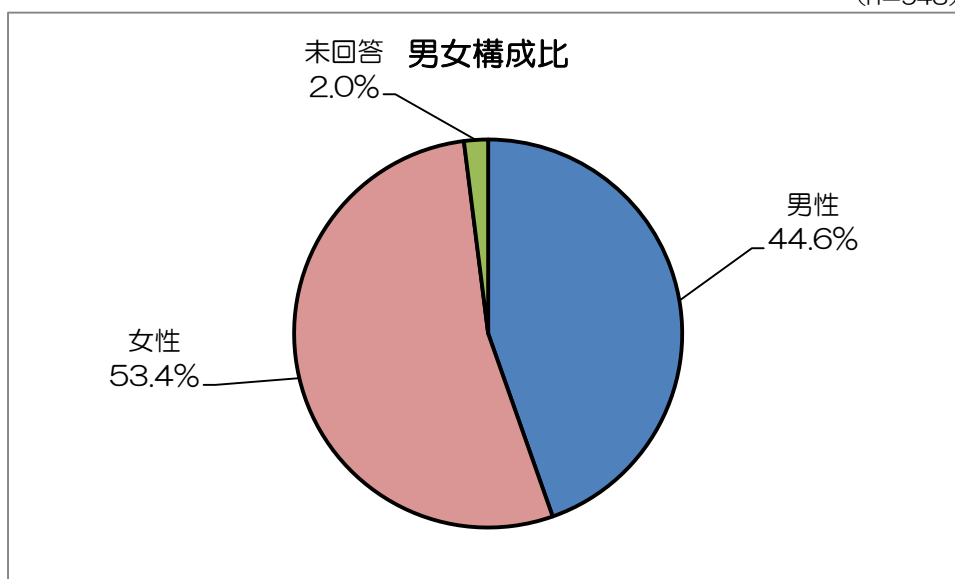


#### (2) 性別回答率

回答者の構成は、男性44.6%、女性53.4%と、若干女性が多い。

性別	人数
男性	421
女性	504
未回答	18
合計	943

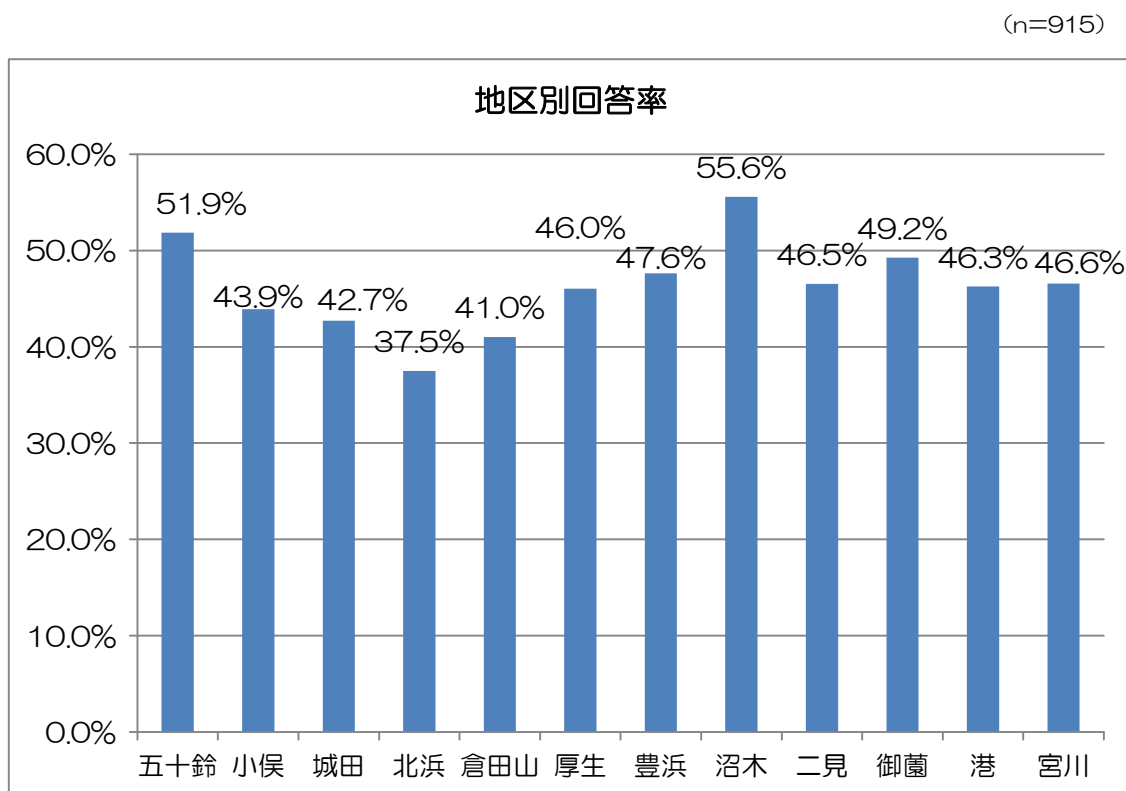
(n=943)



### (3) 居住地区（中学校区）回答率

各地区のアンケート配布数に対する回答割合は以下のグラフのようになった。

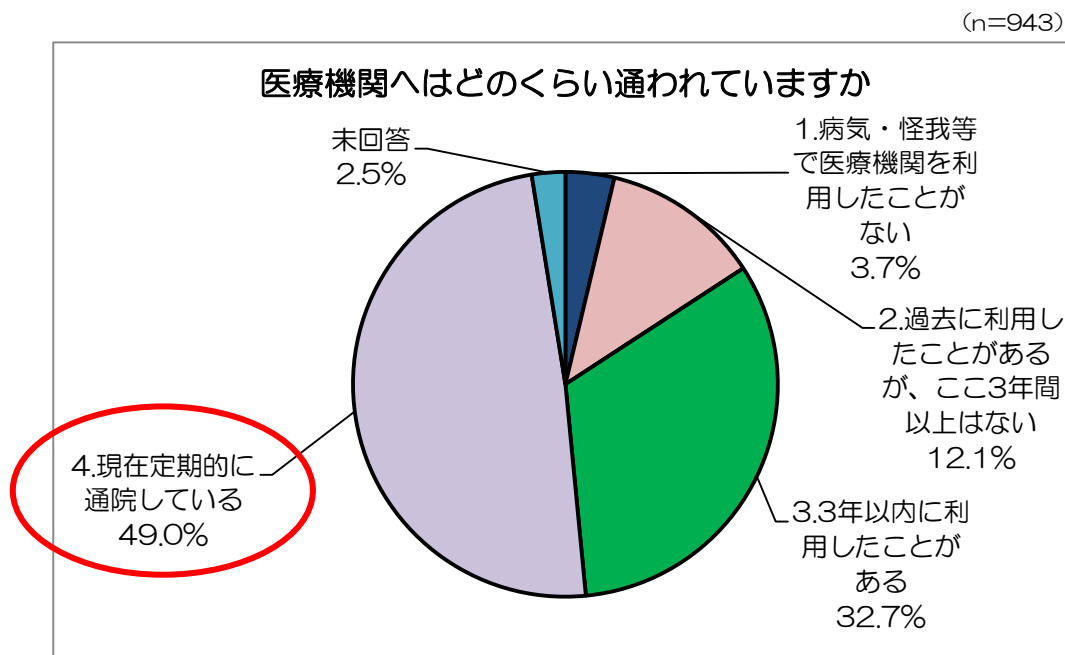
市立伊勢総合病院の属する五十鈴地区が 51.9%、市立伊勢総合病院と位置的に遠い沼木地区の回答率は 55.6%、北浜地区の回答率は 37.5%とばらつきがあるが、その他の地区については、40%から 50%の回答率で、市立伊勢総合病院と各地区の位置関係において回答率の顕著な差は見られなかった。



2. 医療機関（市立伊勢総合病院に限らず）への受診状況をお教え下さい。ご世帯の方どなたでもかまいません。

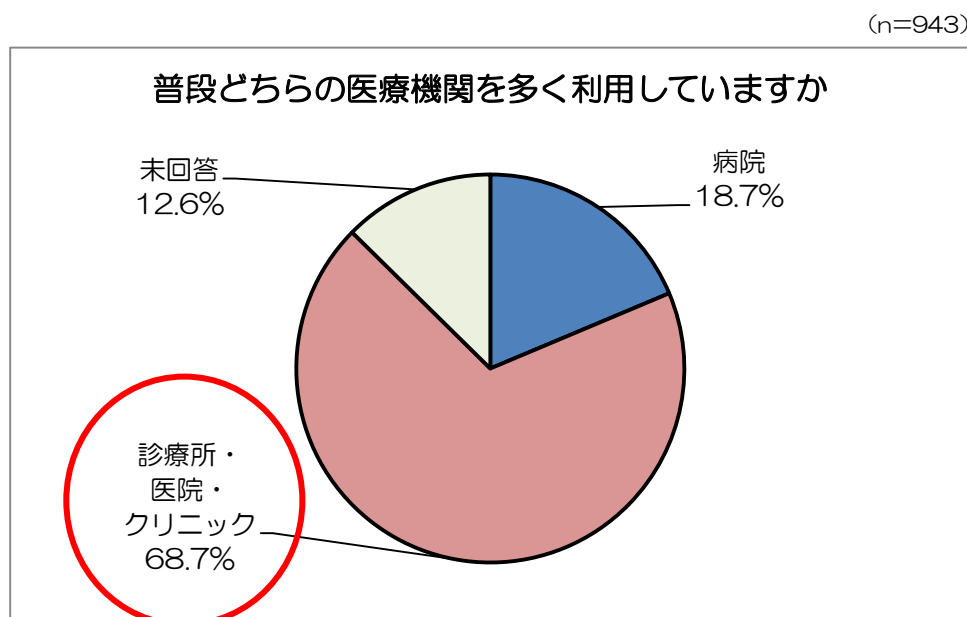
(1) 医療機関へはどのくらい通われていますか。（1つだけお選び下さい）

『現在定期的に通院している』の回答者が49.0%と最も高く、また、『3年以内に利用したことがある』の回答者と合わせると3年以内に81.7%の方が何らかの形で医療機関を利用していることが分かる。



(2) 普段どちらの医療機関を多く利用していますか。（1つだけお選び下さい）

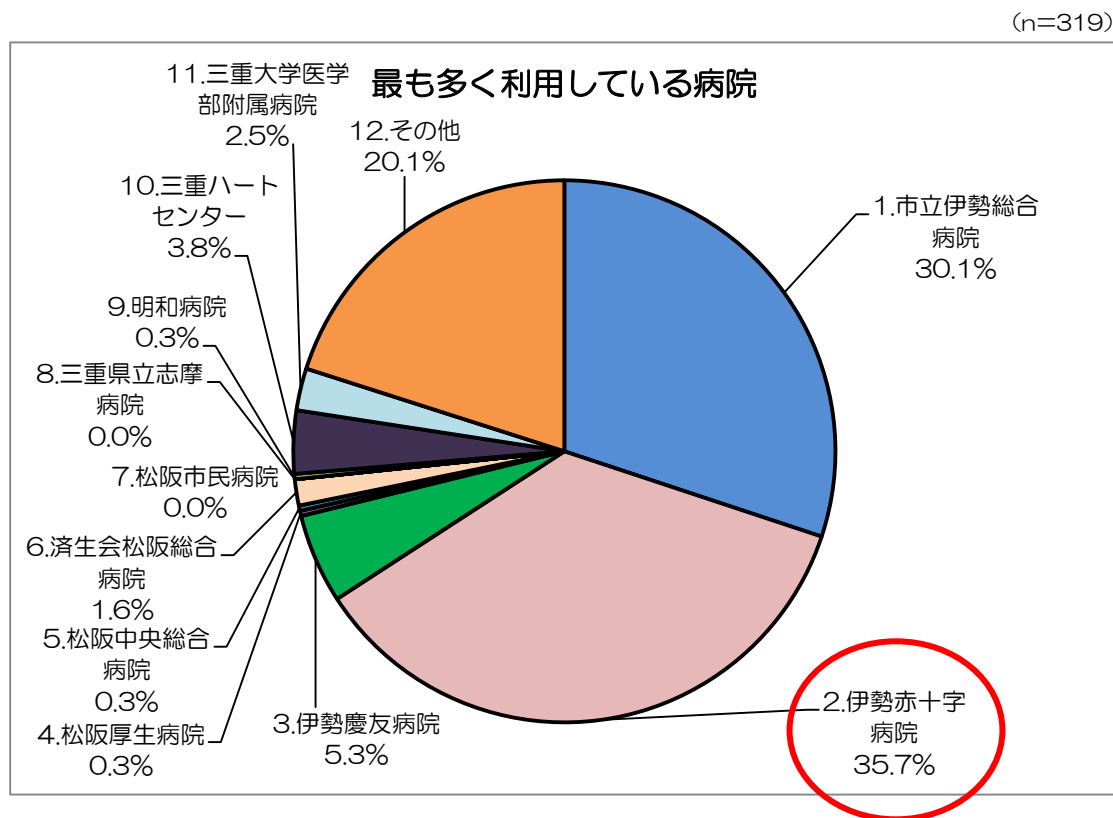
伊勢市民が普段利用している医療機関としては、『診療所・医院・クリニック』が68.7%と最も多い。『病院』を利用している割合は18.7%である。



問（ア）最も多く利用している病院を次の中から一つお選び下さい。

回答者の割合は、伊勢赤十字病院が35.7%と最も割合が高いが、市立伊勢総合病院も30.1%となっており、伊勢赤十字病院に次いで高く、伊勢慶友病院が5.3%で3番目となっている。回答者のうち、71.1%が伊勢赤十字病院、市立伊勢総合病院、伊勢慶友病院を選んでいることになる。

※『2. 問（2）』で『病院』を選んだ回答者以外の一部が本質問に回答しているため、『2. 問（2）』において『病院』を選んだ回答者数と本質問の回答者数は異なる。

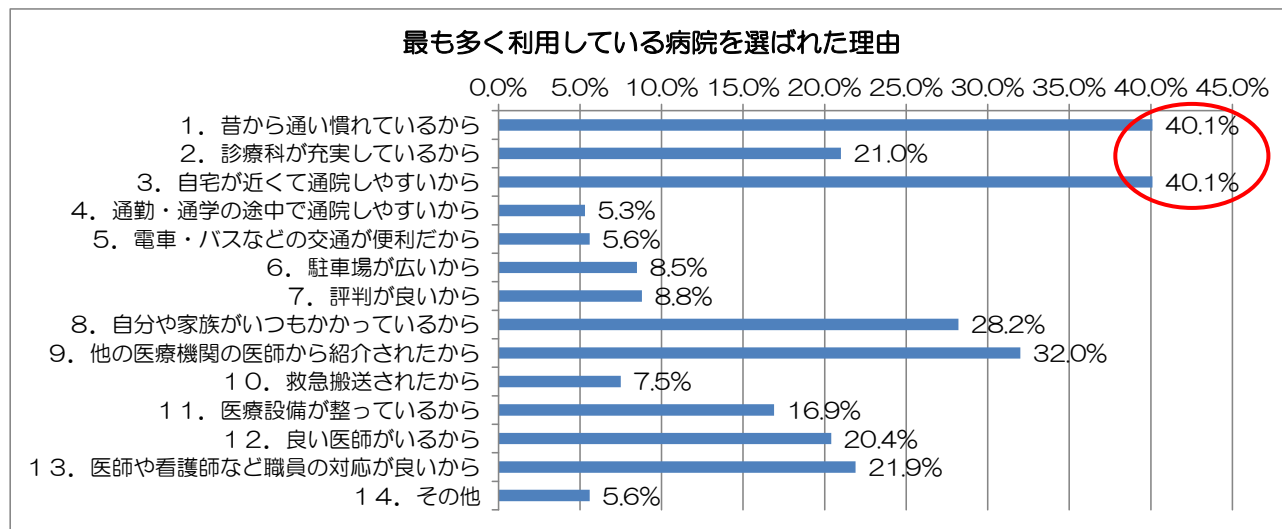




問（イ）問（ア）でお答えいただいた病院を選ばれた理由を以下よりお選び下さい。（4つまでお選び下さい）

病院を選んでいる理由として、『昔から通い慣れているから』、『自宅が近くて通院しやすいから』、『自分や家族がいつもかかっているから』を理由として挙げている回答が多いことから、多くの伊勢市民が生活圏内の病院や比較的身近に感じられる病院を選択している傾向が見える。また、『他の医療機関の医師から紹介されたから』といった回答も 32.0%となっているが、これは地域連携が推進されていることが言える。

(n=319)



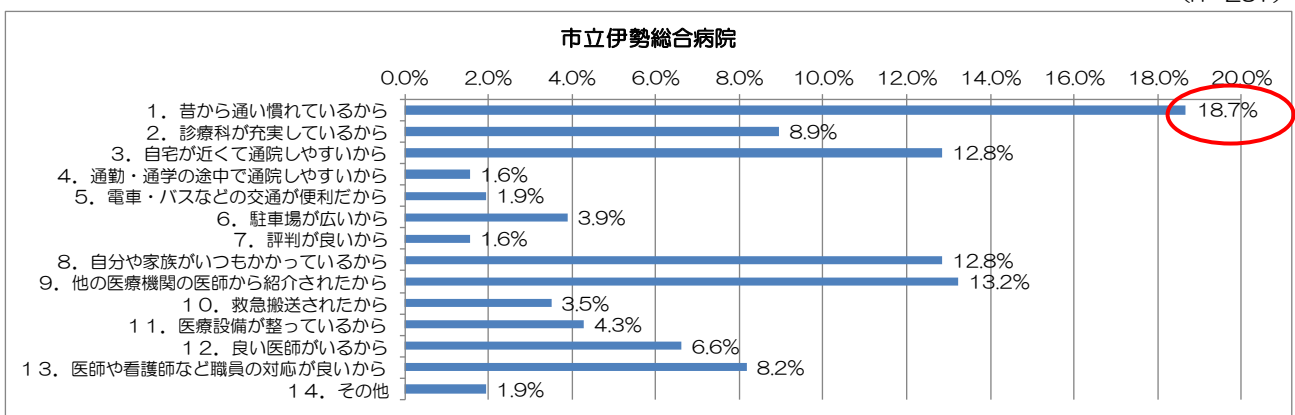
○主要 3 病院比較

市立伊勢総合病院、伊勢赤十字病院、伊勢慶友病院の利用理由の割合を比較したところ、市立伊勢総合病院を主に利用している回答者は『昔から通い慣れているから』を理由として挙げている回答が多い。また、『他の医療機関の医師から紹介されたから』を理由として挙げる割合が 2 番目に高く、地域連携推進の成果が確認されるが、基本的な傾向は前述の全体的な傾向と特別大きな差は見られない。

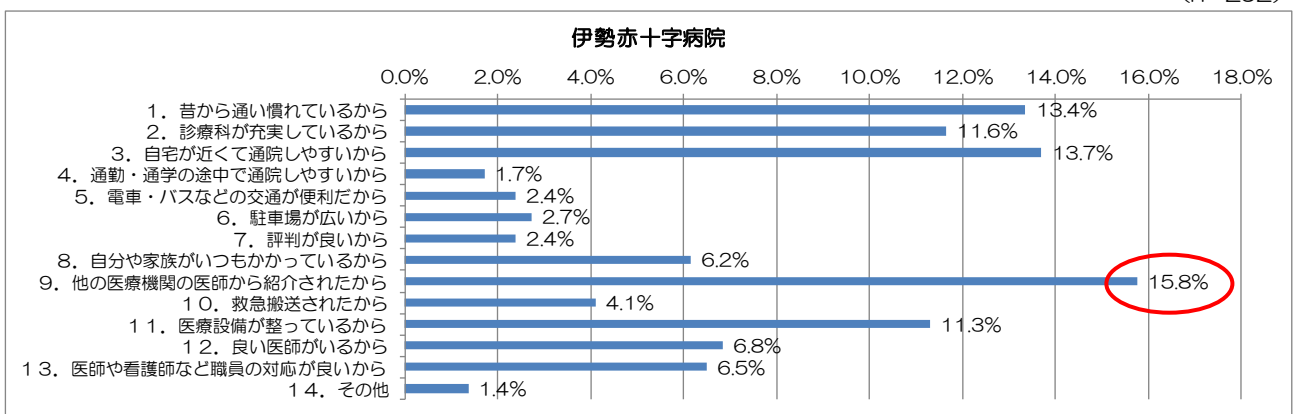
伊勢赤十字病院では『他の医療機関の医師から紹介されたから』を理由として挙げている回答が多く、紹介型医療を特に積極的に行われていることが推察される。加えて『医療設備が整っているから』を回答した割合が他の 2 病院と比べて高くなっていることが特徴的だと言える。

伊勢慶友病院では、『自宅が近くて通院しやすいから』を理由として挙げている回答が多い。

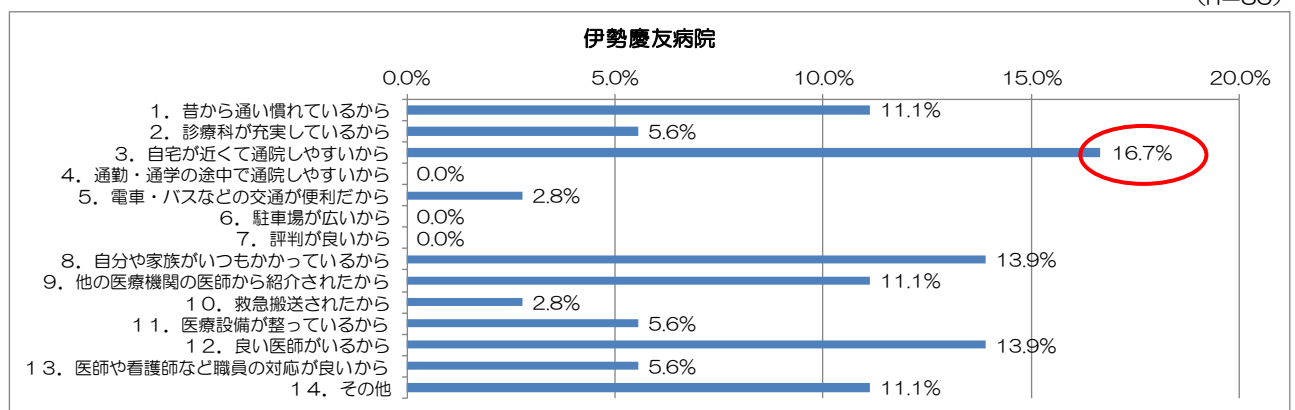
(n=257)



(n=292)



(n=36)

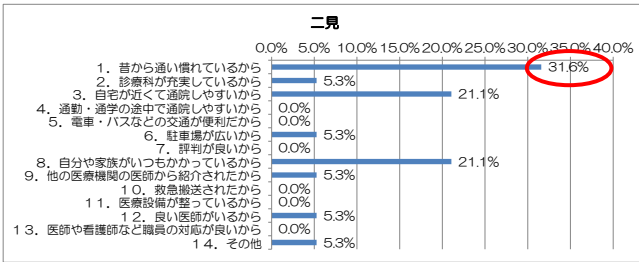


○居住地区（中学校区）別状況（市立伊勢総合病院利用者のみ）

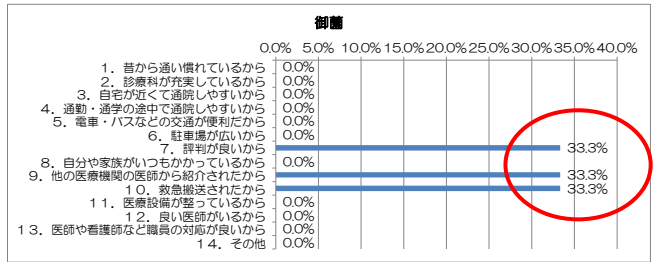
『市立伊勢総合病院』を選んだ回答者に限定して、各地区の傾向を見ると、市立伊勢総合病院の属する五十鈴地区では、『自宅が近くて通院しやすいから』を最も多く挙げており、地区と病院の位置関係の通りとなっている。五十鈴地区に隣接する倉田山地区では、『昔から通い慣れているから』が最も多く、市立伊勢総合病院を身近な存在と捉えているものと推察される。また、市立伊勢総合病院から遠い地区であるにも関わらず、『昔から通い慣れているから』を最も多く挙げている地区があることや、『他の医療機関の医師から紹介されたから』といった回答も見られる。



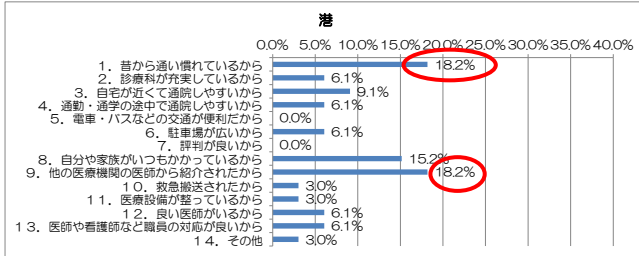
(n=19)



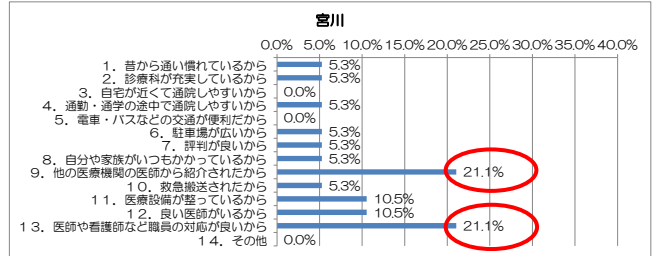
(n=3)



(n=33)



(n=19)



### ○自由記述

『病院』を選んだ理由について、自由記述意見をキーワードにまとめると以下の通りとなっている。

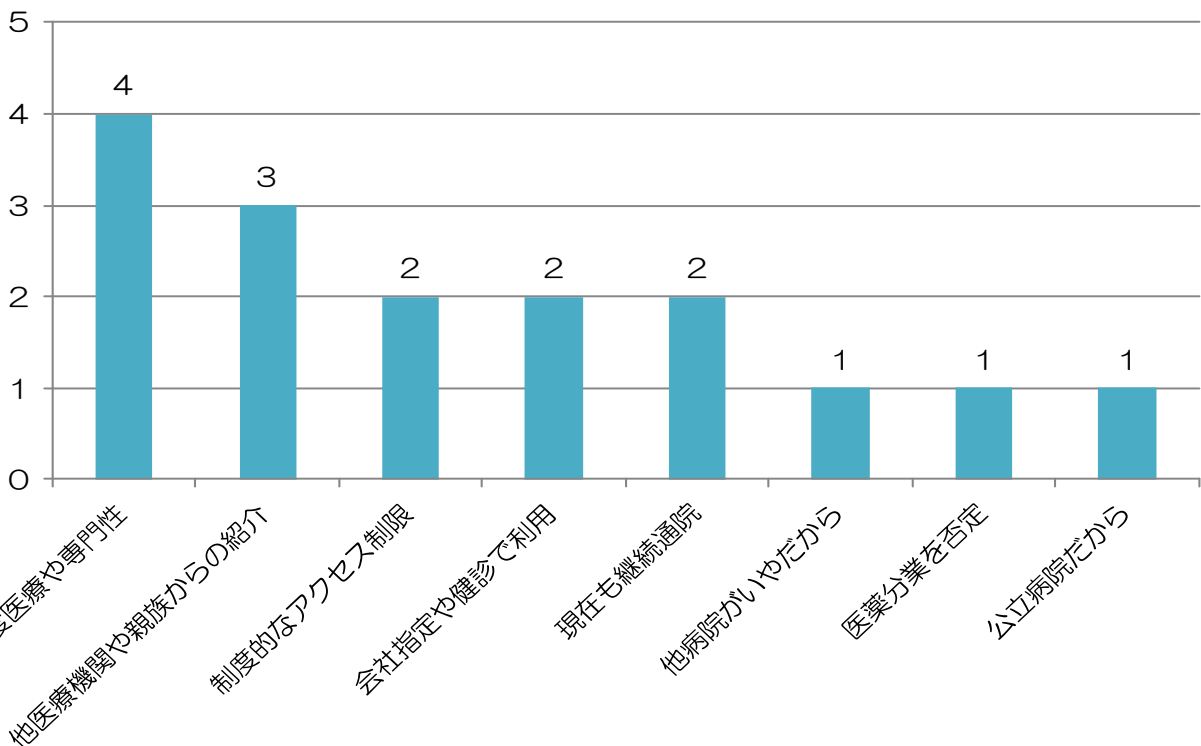
分類した回答については、『高度医療や専門性』や『他医療機関や親族からの紹介』が多く、医療機能を重視する傾向にある。

※自由記述は自由記述された意見をその内容から各項目の要素に割り振っており、1つの意見に複数の要素が含まれている場合は、それぞれの要素に計上している。

(n=16)

問(イ) 問(ア)でお答えいただいた病院を選ばれた理由を以下よりお選び下さい。

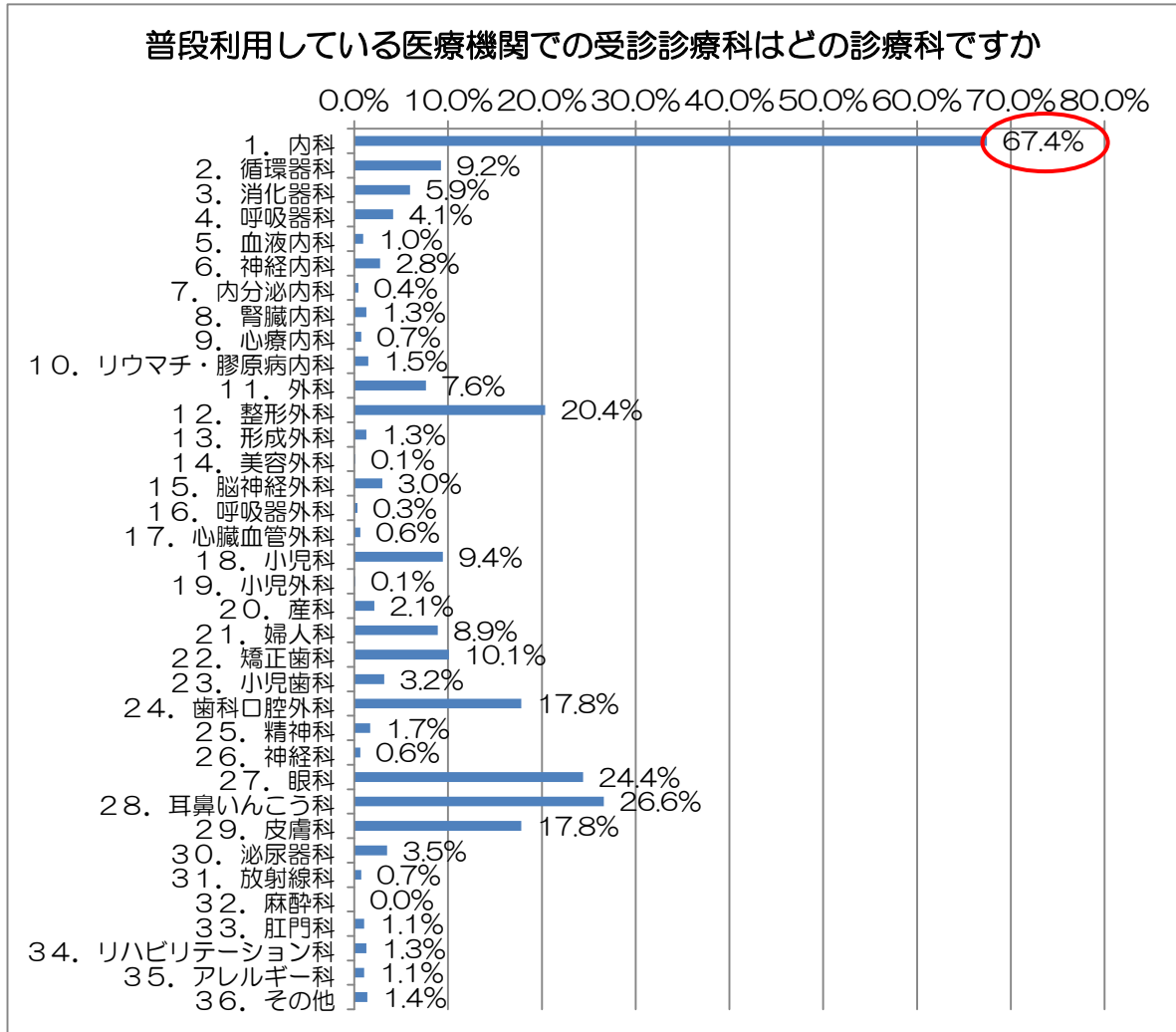
14. その他 内容



(3) 普段利用している医療機関での受診診療科はどの診療科ですか。次の1～36の中からお選び下さい。(複数回答可)

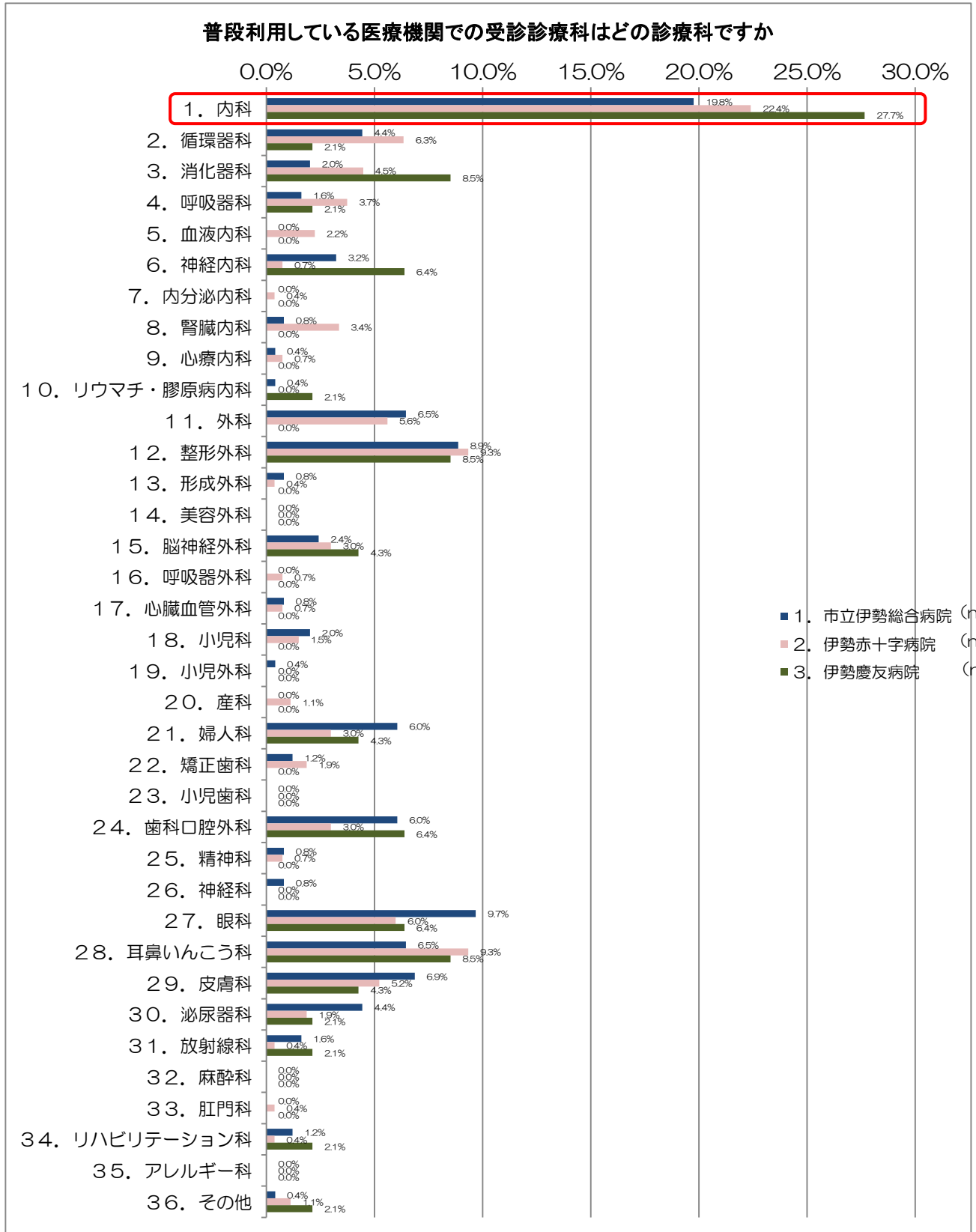
普段利用されている医療機関での受診診療科は、『内科』の受診割合が突出して多い。その他の診療科では、『耳鼻いんこう科』、『眼科』、『整形外科』、『歯科口腔外科』、『皮膚科』の順に受診割合が多い。

(n=943)



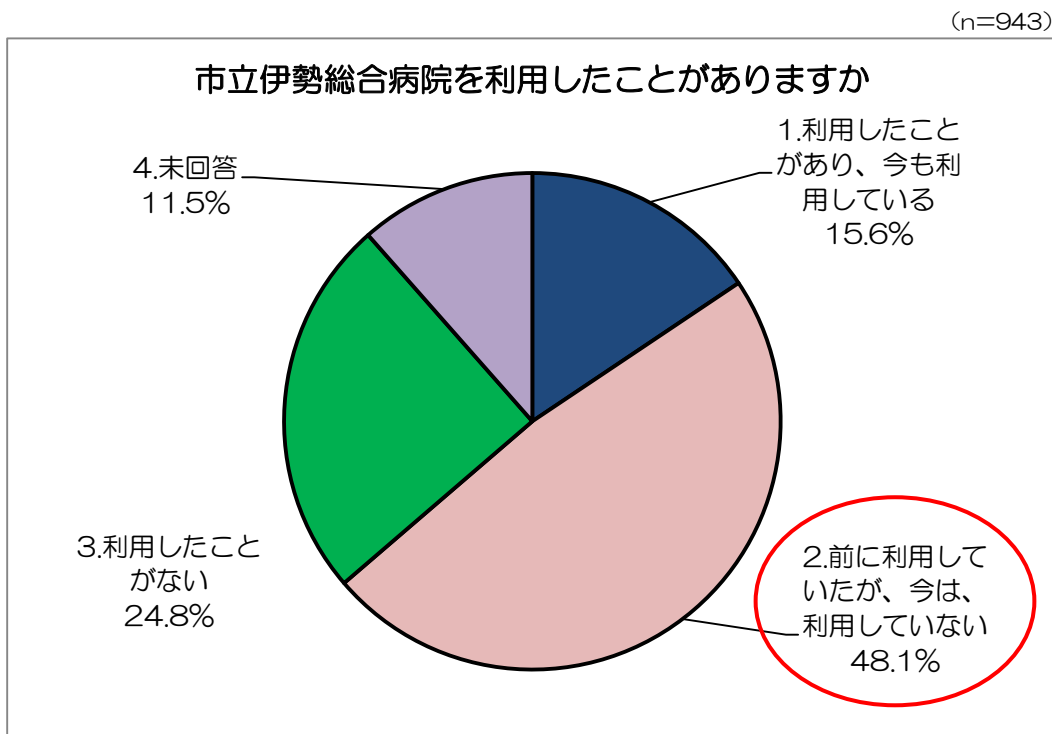
○主要3病院比較

受診診療科について、市立伊勢総合病院、伊勢赤十字病院、伊勢慶友病院と回答されていた回答者に絞って整理すると、3病院とも『内科』の受診割合が突出して高くなっている。



(4) 市立伊勢総合病院を利用したことがありますか。(1つだけお選び下さい)

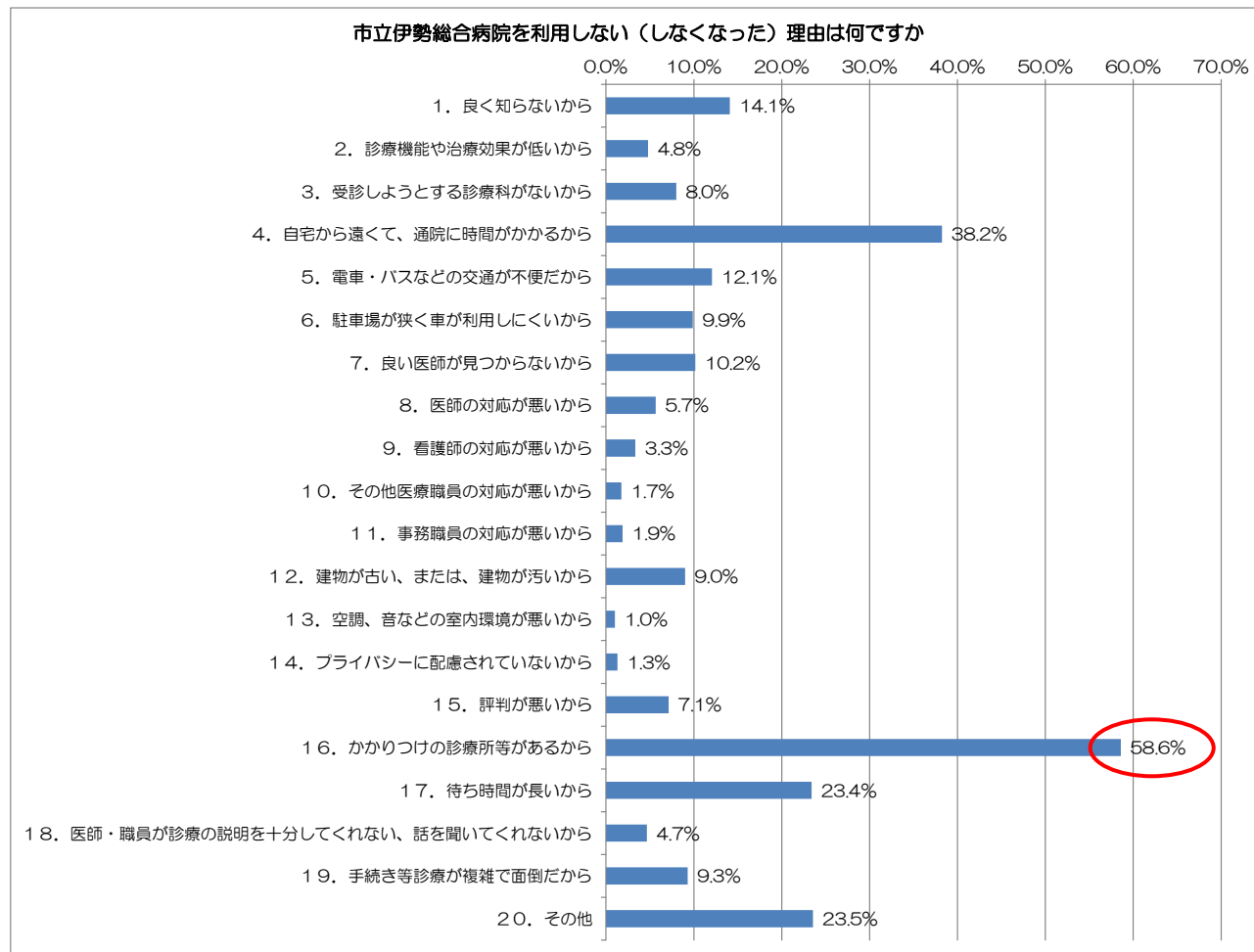
市立伊勢総合病院の利用については、『利用したことがあります、今も利用している(15.6%)』、『前に利用していたが、今は利用していない(48.1%)』の合計が63.7%となっており、伊勢市民の6割強が市立伊勢総合病院を受診している、または過去に受診したことがあったことを示している。また、『利用したことがない』が24.8%となっている。



問（ウ）市立伊勢総合病院を利用しない（しなくなった）理由は何ですか。（6つまでお選び下さい）

『かかりつけの診療所等があるから』を理由として挙げる回答が最も多く、次いで『自宅から遠くて、通院に時間がかかるから』が多い。このことから、市民が生活圏内かまたはそこに近い医療機関を選んでいると言える。また次いで、『待ち時間が長いから』を理由に挙げる回答も多い。

(n=688)





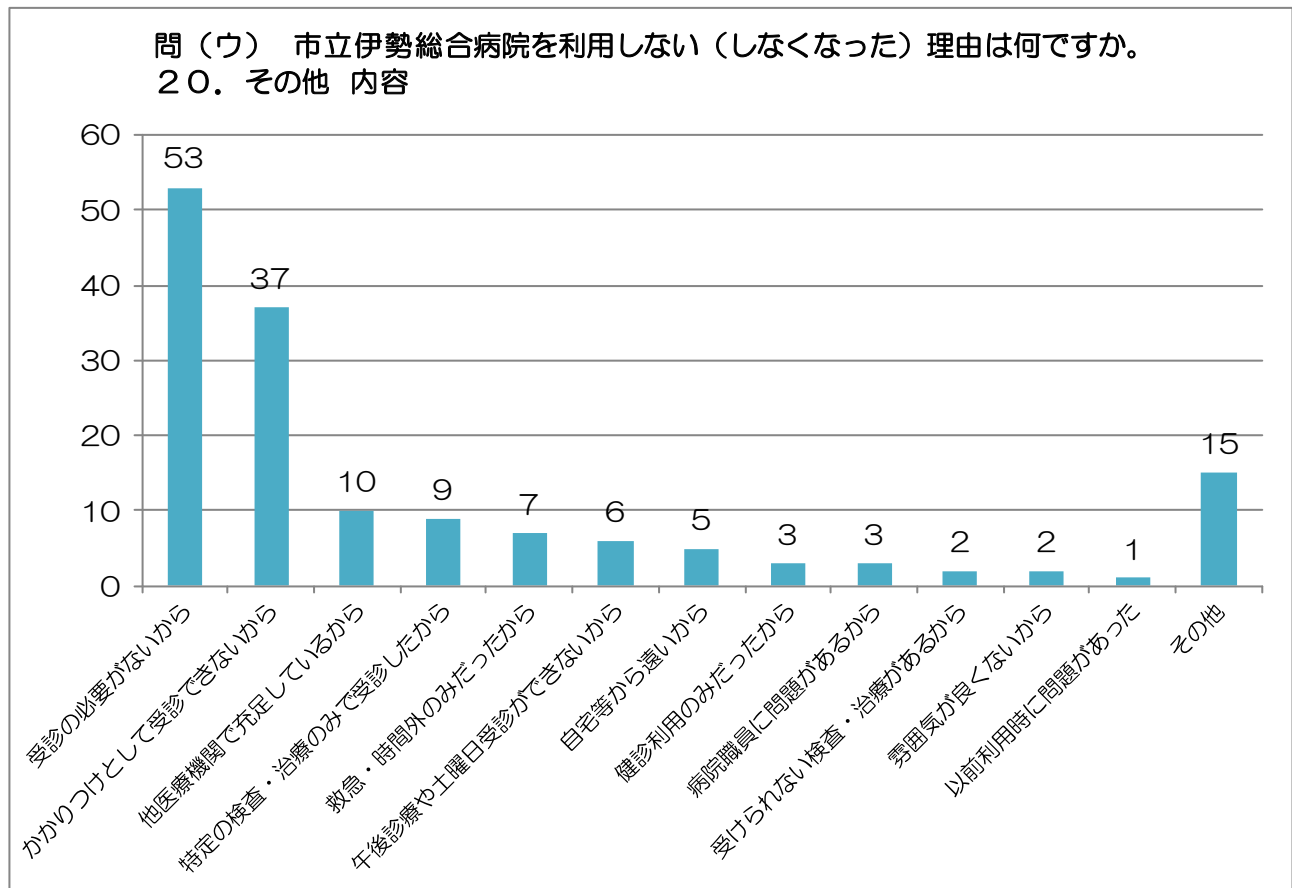
○自由記述

自由記述意見をキーワードにまとめると以下の通りとなっている。

利用しない（しなくなった）理由として、『病気がかかっていないこと』や『完治したこと』など、『受診の必要がないから』を挙げる回答が最も多いが、これらを除くと、『かかりつけとして受診できないこと』を理由として挙げる回答が一番多くなっており、紹介状がないと受診できないことを理由として挙げる回答が多い。

※自由記述は自由記述された意見をその内容から各項目の要素に割り振っており、1つの意見に複数の要素が含まれている場合は、それぞれの要素に計上している。

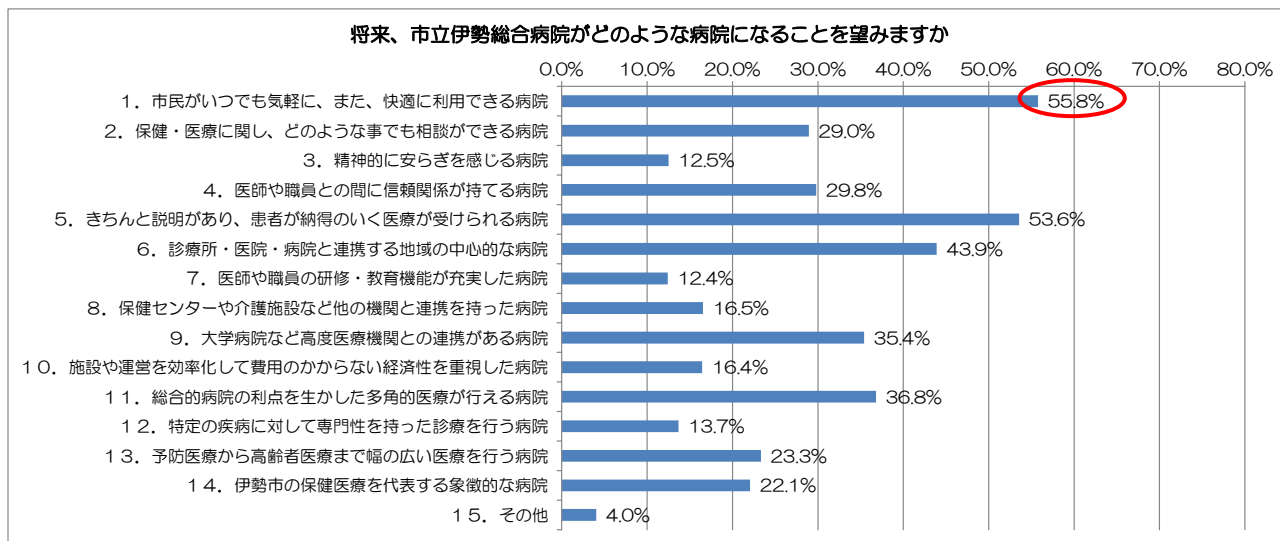
(n=152)



### 3. 将来、市立伊勢総合病院がどのような病院になることを望みますか。(5つまでお選び下さい)

『市民がいつでも気軽に、また、快適に利用できる病院』、『きちんと説明があり、患者が納得のいく医療が受けられる病院』、『診療所・医院・病院と連携する地域の中心的な病院』といった回答が多い。その他では、『総合的病院の利点を生かした多角的医療が行える病院』、『大学病院など高度医療機関との連携がある病院』などの医療機能に関する回答も多いが、相談や信頼関係を求める回答も多く、市民は気軽に受診できること、インフォームドコンセント（説明と同意）を重視していることが確認できる。

(n=943)



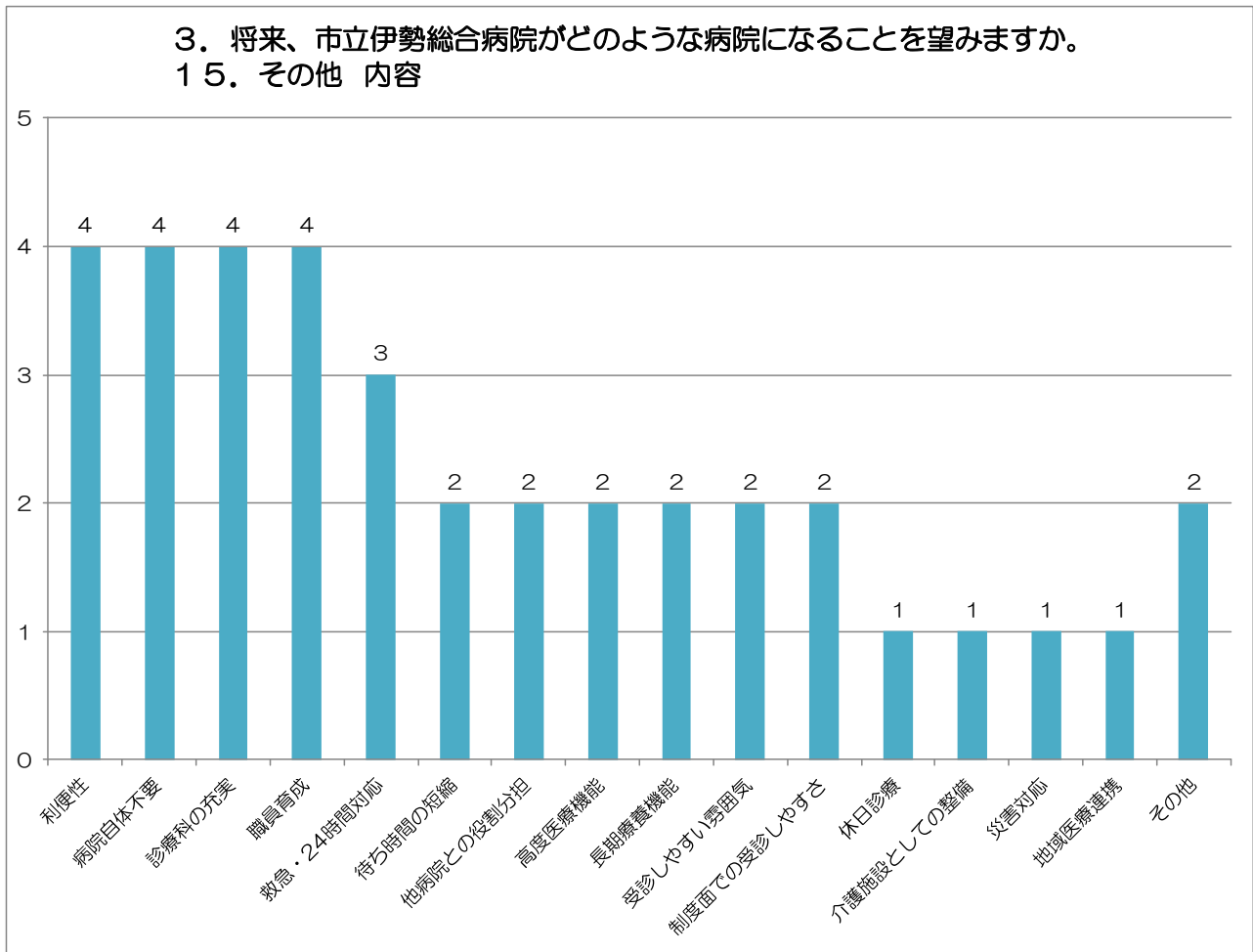
○自由記述

自由記述意見をキーワードにまとめると以下の通りとなっている。

『利便性』に関する意見、『病院自体不要』と病院の存在意義に関する意見、『診療科の充実』に関する意見、『職員育成』に関する意見等、様々な意見が寄せられているが、病院に対して厳しい意見も見られる。

※自由記述は自由記述された意見をその内容から各項目の要素に割り振っており、1つの意見に複数の要素が含まれている場合は、それぞれの要素に計上している。

(n=36)

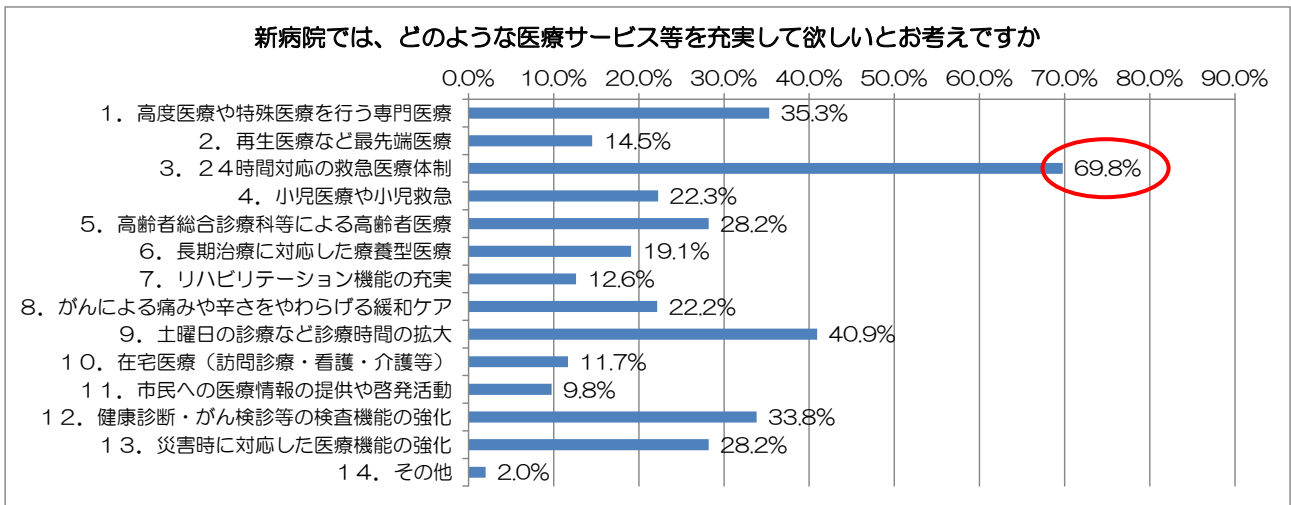


4. 新病院では、どのような医療サービス等を充実して欲しいとお考えですか。(4つまでお選び下さい)

医療サービスに関しては、『24時間対応の救急医療体制』の回答が突出して多くなっている。年齢別状況でも同じく『24時間対応の救急医療体制』の回答が多い。なお、『再生医療など最先端医療』に関する回答は少ないが、『高度医療や特殊医療を行う専門医療』を求める回答は多い。また、『健康診断・がん検診等の検査機能の強化』についても意見が多い。

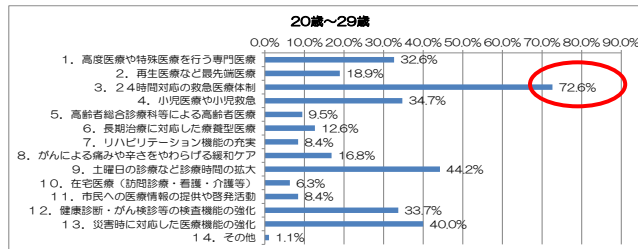
年齢別状況では、20～29歳、30歳～39歳では『小児医療や小児救急』、70歳以上で『高齢者総合診療科等による高齢者医療』の回答が多くなっている等、年齢層に応じた回答の傾向が見られる。

(n=943)

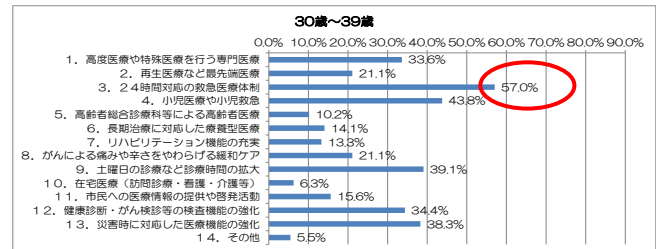


○年齢別状況

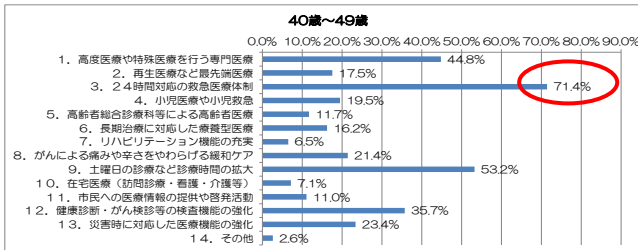
(n=95)



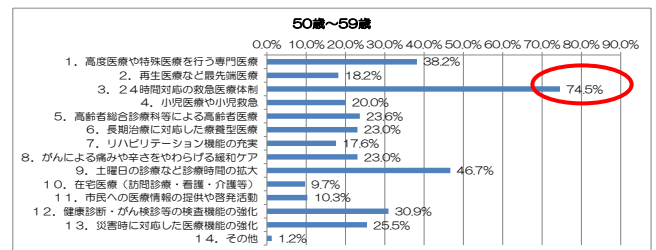
(n=128)



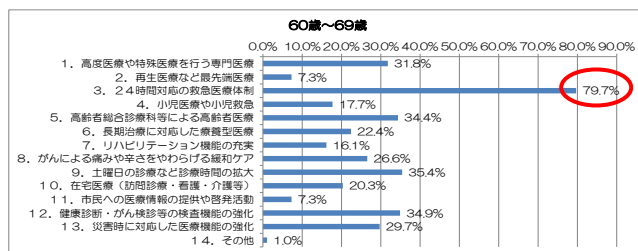
(n=154)



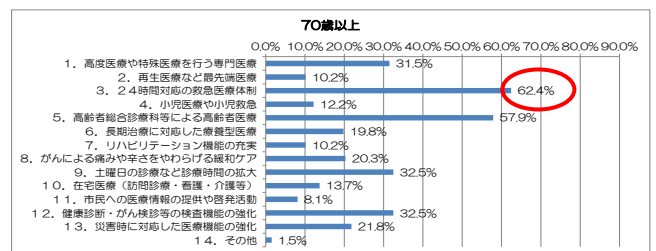
(n=165)



(n=192)



(n=197)



○自由記述

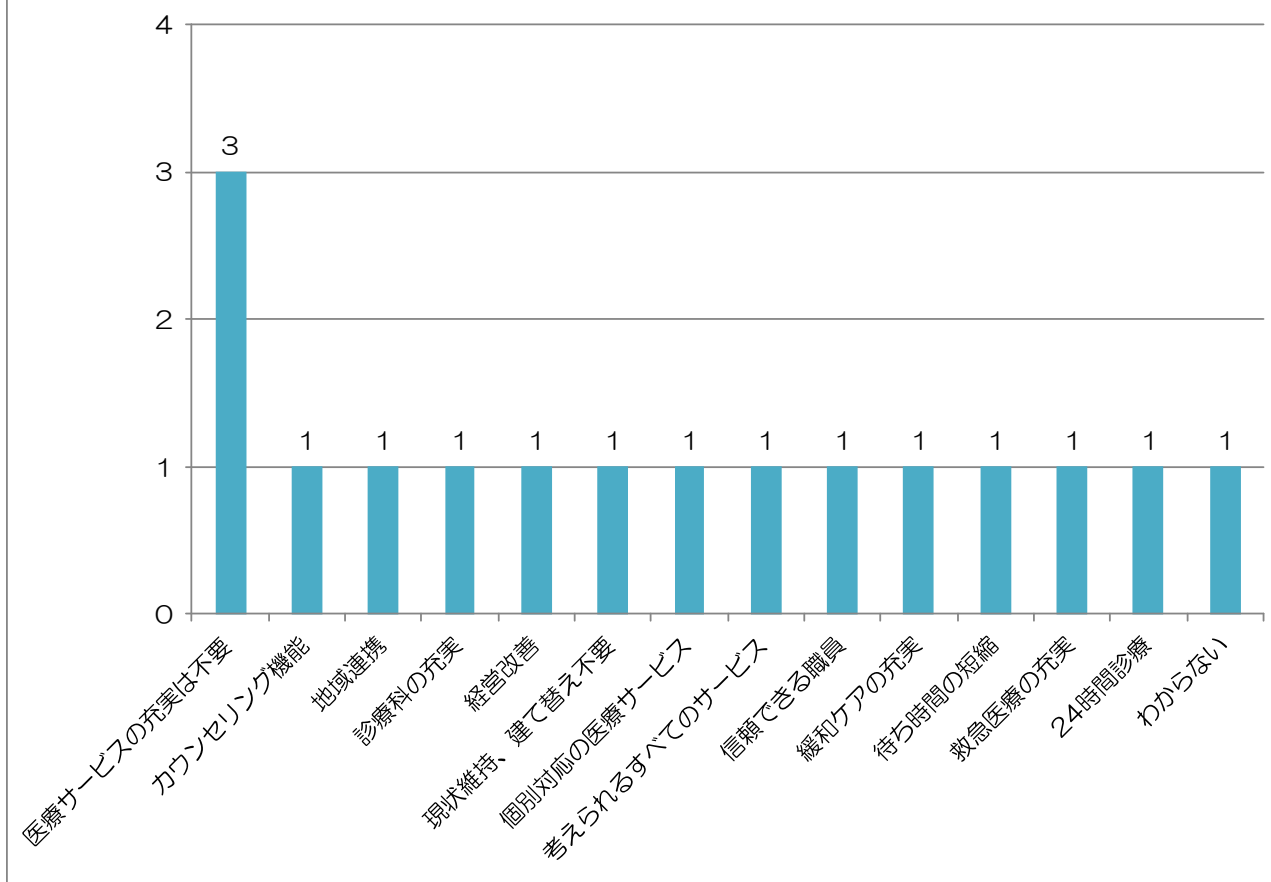
自由記述意見をキーワードにまとめると以下の通りとなっている。

選択式の回答と異なり様々な意見が見られるが、『医療サービスの充実は不要』、『現状維持、建て替え不要』とする厳しい意見が見られるが、『地域連携』や『診療科の充実』、『救急医療の充実』、『24時間診療』などを求める意見も確認できる。

※自由記述は自由記述された意見をその内容から各項目の要素に割り振っており、1つの意見に複数の要素が含まれている場合は、それぞれの要素に計上している。

(n=16)

4. 新病院では、どのような医療サービス等を充実して欲しいとお考えですか。  
14. その他 内容

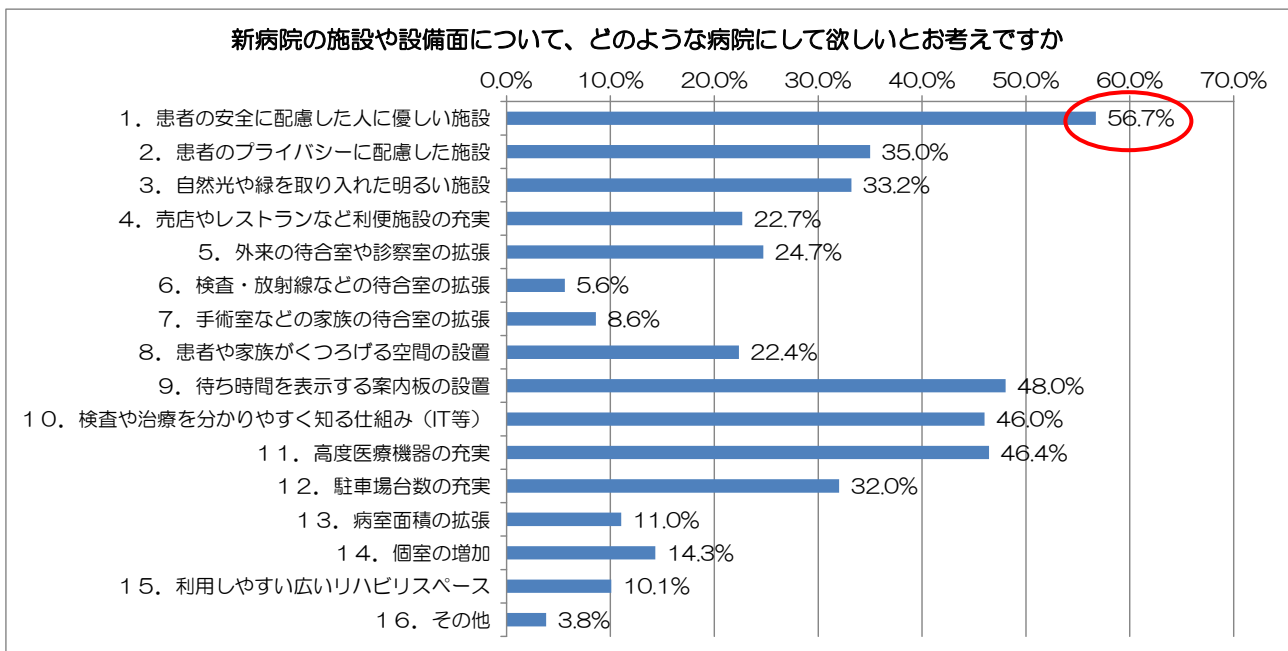


5. 新病院の施設や設備面について、どのような病院にして欲しいとお考えですか。(5つまでお選びください)

施設・設備面については、『患者の安全に配慮した人に優しい施設』の回答が多い。

また、『待ち時間を表示する案内板の設置』や、『検査や治療を分かりやすくする仕組み（IT等）』といった、受診のしやすさ、インフォームドコンセントに関する回答も多い。なお、『高度医療機器の充実』の回答が多いなど、高度専門医療に関する要望も確認できる。逆に、待合室の拡張や病室面積の拡張等については比較的少なく、他の回答ほど重視していないことが確認できる。

(n=943)



○自由記述

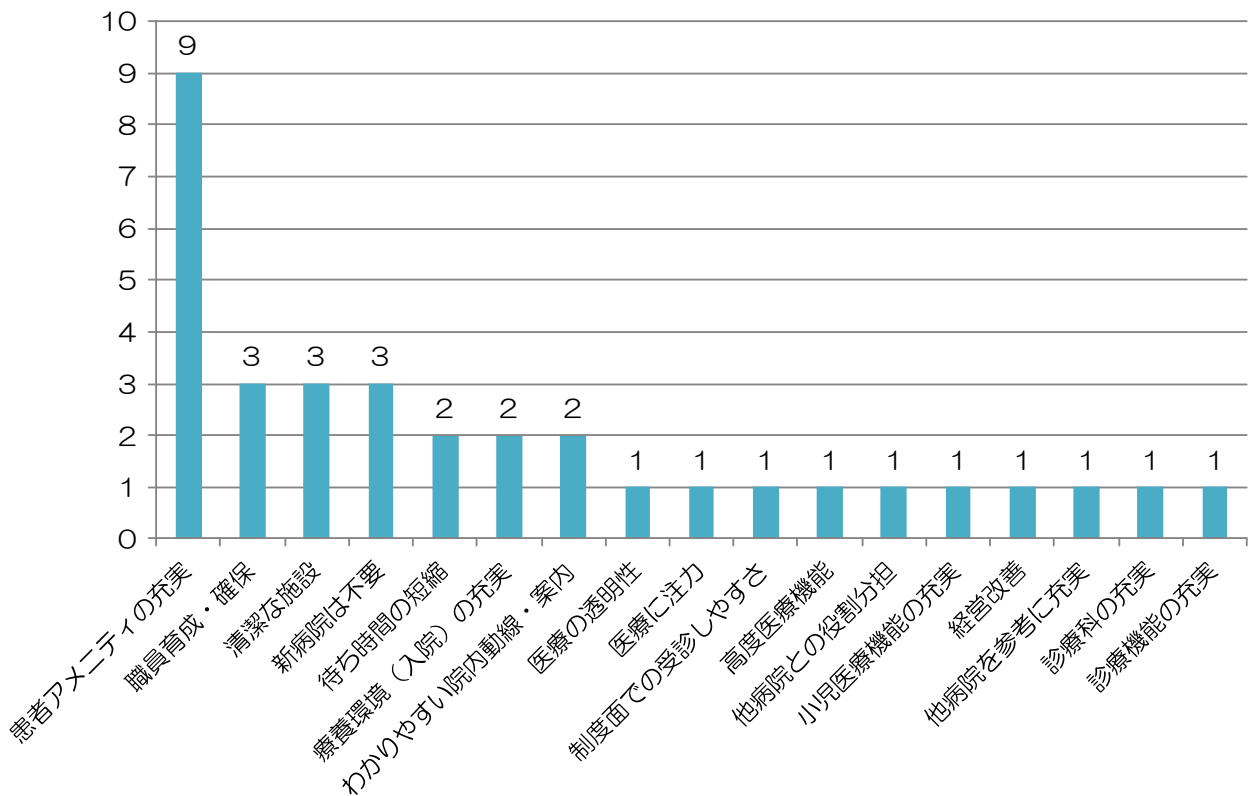
自由記述意見をキーワードにまとめると以下の通りとなっている。

患者同士が交流できる空間や来院者がくつろげる空間、障がい者トイレ等、『患者アメニティの充実』を求める回答が最も多い。また、『職員育成・確保』や『清潔な施設』を求める回答も多い。

※自由記述は自由記述された意見をその内容から各項目の要素に割り振っており、1つの意見に複数の要素が含まれている場合は、それぞれの要素に計上している。

(n=33)

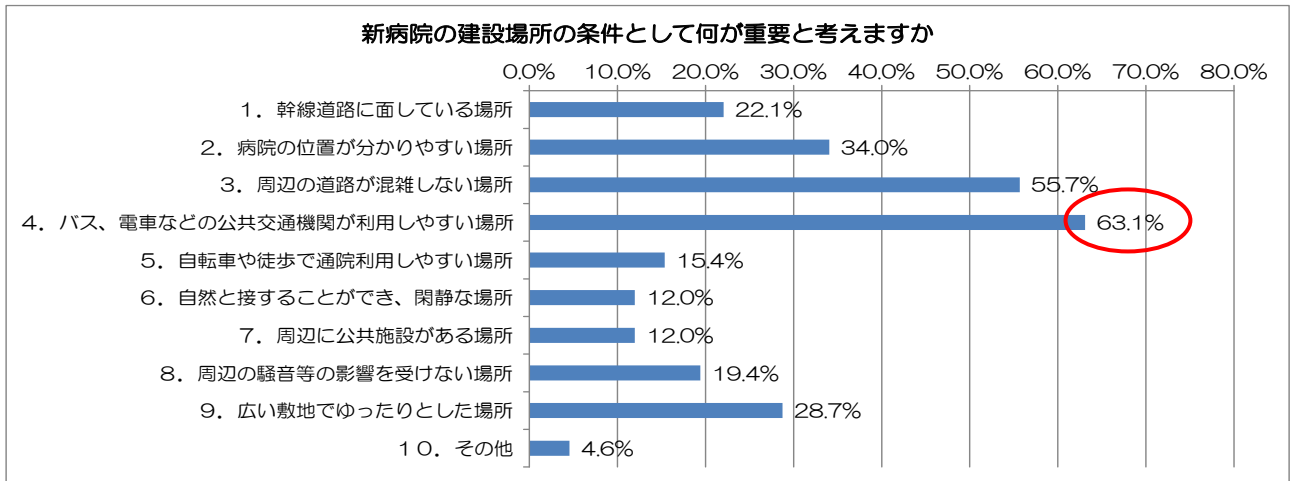
5. 新病院の施設や設備面について、どのような病院にして欲しいとお考えですか。  
(5つまでお選びください)



## 6. 新病院の建設場所の条件として何が重要と考えますか。(3つまでお選び下さい)

新病院の建設場所については、『バス、電車などの公共交通機関が利用しやすい場所』、『周辺の道路が混雑しない場所』など、公共交通機関や自家用車での来院の利便性を求める回答が多い。逆に、『周辺に公共施設がある場所』、『自然と接することができ、閑静な場所』といった療養環境に関する回答は比較的少ない。

(n=943)

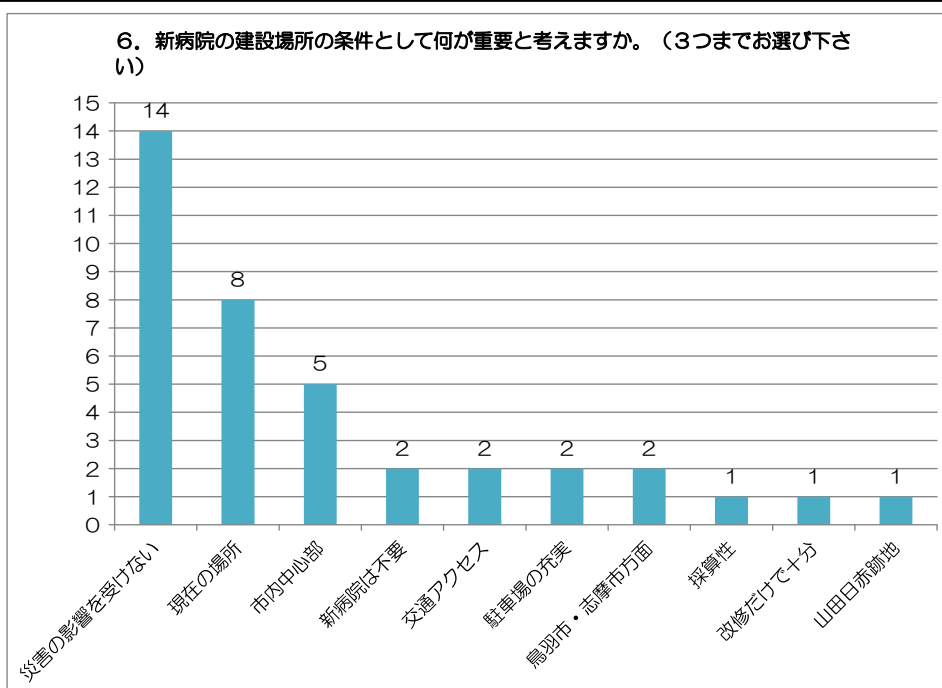


### ○自由記述

自由記述意見をキーワードにまとめると以下の通りとなっている。

津波など、『災害の影響を受けない』場所に整備すべきとの回答が最も多い。次いで、伊勢市街等、『市内中心部』の交通の利便性が高い場所への整備を求める回答が多くなっているとともに、『現在の場所』を希望する意見も見られる。

※自由記述は自由記述された意見をその内容から各項目の要素に割り振っており、1つの意見に複数の要素が含まれている場合は、それぞれの要素に計上している。

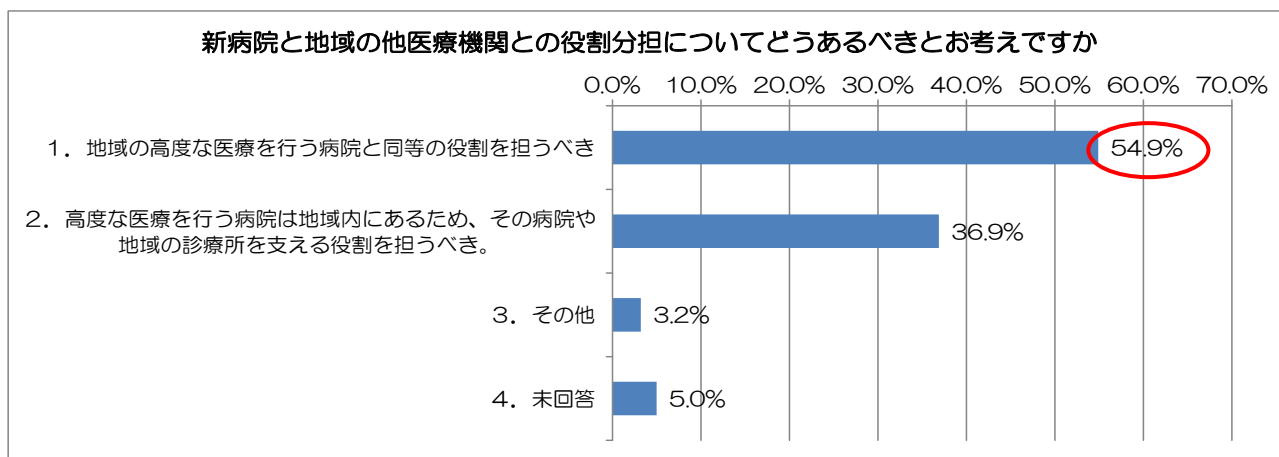




7. 地域での病院の役割を明確にして、地域全体で医療を考える動きが進んでおります。そこで新病院と地域の他医療機関との役割分担についてどうあるべきとお考えですか。（1つだけお選びください）

新病院と他医療機関の役割分担についての質問項目に対して、『地域の高度な医療を行う病院と同等の役割を担うべき』という回答が最も多い。このことから、伊勢市民が高度医療を担う病院として伊勢赤十字病院だけでは足りないと考えていると言える。

(n=943)



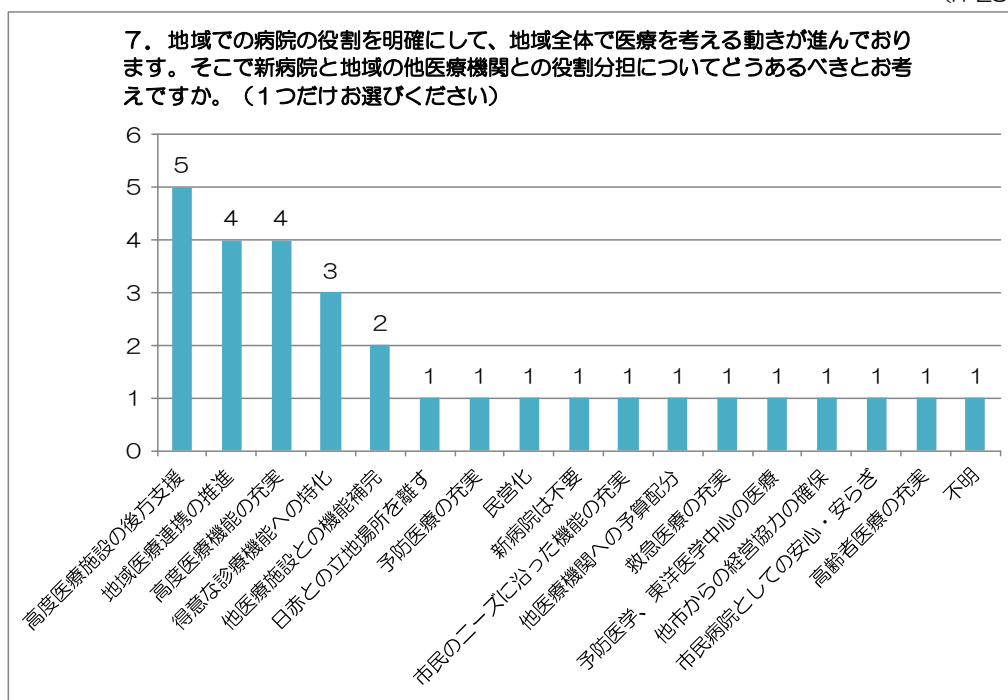
○自由記述

自由記述意見をキーワードにまとめると以下の通りとなっている。

新病院の役割として、『高度医療施設の後方支援』を担う意見や『地域医療連携の推進』を求める回答が最も多いが、『高度医療機能の充実』を求める意見も多く、意見が分かれている。

※自由記述は自由記述された意見をその内容から各項目の要素に割り振っており、1つの意見に複数の要素が含まれている場合は、それぞれの要素に計上している。

(n=28)



8. 他に、市立伊勢総合病院についてのご意見がありましたらご記入下さい。複数のご意見がある場合は、それぞれの段にお書きください。

自由記述意見をキーワードにまとめると以下の通りとなっている。

『診療・職員対応に関する問題提起』が最も多い。次いで、公立の病院として患者や患者家族が安心・信頼を感じることができる病院であることを望む回答、交通等の『アクセスの改善』、紹介制度など『制度的なアクセス制限に関する改善』などの要望も多い。その他では、『職員育成・確保』の回答も見られる。

※自由記述は自由記述された意見をその内容から各項目の要素に割り振っており、1つの意見に複数の要素が含まれている場合は、それぞれの要素に計上している。

(n=334)

1. 診療・職員対応に関する問題提起（66件）

- ・『職員の接遇に関する問題（丁寧な対応、患者目線での対応等）』、『診療を受けた際の問題（プライバシーや療養環境の配慮、手技に関する直接的意見）』など。過去に受診した際の事例を挙げたクレーム的な意見が比較的多い。

2. 安心・信頼の確保（29件）

- ・病院全体の雰囲気や対応など、『病院全体の温かみ』、『安心感、信頼感』をもとめる意見が多い。

3. アクセスの改善（25件）

- ・回答者の『自宅からのアクセスの問題（距離、交通手段）』や『現病院の駐車場に関する問題（広さ、料金）』に関する意見が多い。

4. 制度的なアクセスの改善（24件）

- ・『かかりつけ診療所からの紹介無しでの受け入れ（受診して良い仕組みへの要望、選定療養費への不満）』に関する意見が多い。

5. 専門医療機能の充実（22件）

- ・『専門診療科の充実（脳外科、小児科、産科等）』、『専門診療機能の充実（専門外来や高度医療機器の整備）』、『伊勢赤十字病院と同等の機能の整備』に関する意見が多い。

6. 患者アメニティの充実（21件）

- ・『患者利便施設の充実（売店、食堂、キャッシュコーナー等）』、『院内環境の整備（病室や廊下の広さ、案内の見やすさ、院内の明るさ）』に関する意見が多い。

7. 経営改善・経営への配慮（19件）

- ・『黒字経営の確保』、『経営意識、経済性』に関する意見が多い。また、『病院建設には反対ではないが、整備費は確保できるのか』といった新病院整備費用に関する意見も確認できる。

8. 病院への感謝（19件）

- ・『親切・丁寧に対応してもらった』など、受診した際の病院職員の対応に関する感謝のことばが多い。

9. 地域に密着した親しめる雰囲気（18件）

- ・『地域に密着した病院』や『親しみやすい病院』に関する意見が多い。

10. 総合医療機能の充実（16件）

- ・『総合的な幅広い診療機能』、『複数科連携による総合的な診療』など、『何かあった時に受けられる』機能を求めた意見が多い

11. 市に対する問題提起（15件）

- ・『病院整備に関する市（市長）の方針を示してほしい』や『病院だけではなく福祉も含めた市の対応』などに関する意見が多い。

12. 新病院建設推進（12件）

- ・『新病院に期待』する意見が多い。

13. 地域連携と役割分担（11件）

- ・『伊勢赤十字病院との連携』や『地域診療所との密接な連携』に関する意見が多い。

14. 新病院建設反対（8件）

- ・『市の財政面』や『病院の経営赤字』を不安視して反対する意見が多い。また、『建て替える前に経営努力を』といった意見も確認できる。

15. 新病院は現地で建設（8件）

- ・現在、自宅とのアクセスが比較的良好な状況にある回答者からの意見が多い。

16. 待ち時間の改善（8件）

- ・『外来待ち時間の改善』を求める意見が多い。

17. 職員育成・確保（7件）

- ・『職員の研修制度の充実』や『職員確保』に関する意見が多い。

18. 災害対策（7件）

- ・『東日本大震災を踏まえた津波対策』に関する意見が多い。

19. 長期療養機能の確保（7件）

- ・『地域の高齢化を考慮した長期入院もできる病院』を求める意見が多い。

20. 健診の充実（5件）

- ・『健診・ドックをもっと受けやすく』という意見が多い。

21. 高度医療施設の後方支援（5件）

- ・『伊勢赤十字病院からの転院受け入れ』、『伊勢赤十字病院との役割分担』に関する意見が多い。

22. 特色ある病院（4件）

- ・『機能の特化』や『総合にこだわらない特色のある病院』に関する意見が多い。

23. 病院存続（4件）

- ・『病院存続』を求める意見が多い。

24. 24時間救急（4件）

- ・『救急の充実』を求める意見。

25. アンケートに対する問題提起（3件）

- ・『アンケート設問』や『アンケートの取り方』に関する指摘意見。

26. 医療行政に対する問題提起（2件）

- ・『通常受診している病院へ救急搬送してほしい』、『完全に治るまで入院したい』などの医療行政の仕組みに関する意見。

27. 東洋医学等の推進（2件）

- ・『西洋医学だけではなく東洋医学』を求める意見。

28. 他市からの経営協力の確保（2件）

- ・『伊勢病院への受診が多い近隣市町からの財政支援』を求める意見。

29. 新病院は不要（2件）

- ・『病院そのものが不要』、『改装・リフォームに留めるべき』とする意見。

30. 職員にやさしい体制の確保（1件）

- ・『病院職員にやさしい体制』を求める意見。

31. 患者学習機能（1件）

- ・『患者が学習できる場』を求める意見。

32. その他（16件）

- ・『わからない、特に無し』といった回答や分類困難な意見。

### Ⅲ. 総括

以上の集計結果から、アンケートの目標に掲げられている項目に対する総括は以下のとおりとなる。

1. 市民が理想とする市民病院像やそれに関わる意見の把握
  - ・『将来、市立伊勢総合病院がどのような病院になることを望みますか』との質問項目に対して、『市民が気軽に、また、快適に利用できる病院』、次いで、『きちんと説明があり、患者が納得のいく医療が受けられる病院』を挙げる回答が多い。このことから、市民は、市立伊勢総合病院は公立病院として市民に開かれた病院であり、受診する上で、アクセスや手続き等の制度が障害になることがない病院であることを望んでいる。
2. 市民の受療動向の把握と新病院での受療予測
  - ・市民が日頃使用する医療機関は診療所・医院である。
  - ・通院している病院を選んだ理由として、『昔から通い慣れているから』、『自宅が近くて通院しやすいから』が多く挙げられているが、これらに次いで『他医療機関の医師から紹介されたから』を理由として多く挙げられている。
  - ・新病院の建設場所によって地域住民の受療動向は多少変化する可能性はあるが、地域連携が推進されている医療行政や『他医療機関の医師から紹介されたから』を理由として多く挙げられていることから、新病院での受療予測は現状と大きく変わらないものと予測される。
3. 当院受診の阻害要因の抽出と改善点の把握
  - ・伊勢赤十字病院では『他の医療機関の医師から紹介されたから』を理由として挙げている回答が多く、紹介型医療を特に積極的に行われていることが推察される。加えて『医療設備が整っているから』を回答した割合が他の2病院と比べて高くなっていることが特徴的だと言える。言い換えると、市立伊勢総合病院の医療設備が整っていないために伊勢赤十字病院を選んでいるという傾向は否定できない。
  - ・新病院の立地については、『バス、電車などの公共交通機関が利用しやすい場所』、次いで『周辺の道路が混雑しない場所』を挙げる回答が多いことから、来院手段を考慮した検討が必要となる。
4. 地域医療連携において、新病院に必要な機能に対する意見の抽出
  - ・新病院では、24時間対応の救急医療を充実して欲しいとの意見が主である。
  - ・20～29歳、30歳～39歳では『小児医療や小児救急』、70歳以上で『高齢者総合診療科等による高齢者医療』の回答が多くなっている等、年齢層に応じた回答の傾向が見られる。
  - ・『待ち時間を表示する案内板の設置』や、『検査や治療を分かりやすくする仕組み（IT等）』といった、受診のしやすさ、インフォームドコンセントに関する回答も多い。なお、『高度医療機器の充実』の回答が多いなど、高度専門医療に関する要望も確認できる。
5. 地域医療連携における新病院の役割の明確化
  - ・新病院と他医療機関の役割分担に関する質問項目に対して、『地域の高度な医療を行う病院と同等の役割を担うべき』を挙げる回答が多いことから、市民は、公立病院として比較的容易に高度医療

を受診できる病院としての役割を求めている。

- ・市立伊勢総合病院を主に利用している回答者から受診理由として、『昔から通い慣れているから』を理由として挙げている回答が多いが、『他の医療機関の医師から紹介されたから』を理由として挙げる割合が2番目に高く、地域連携を推進してきた成果が確認される。